

令和4年度 兵庫県立松陽高等学校（全日制課程）学校自己評価

【平均】よくできた（5点）		できた（4点）		あまりできなかった（2点）		できなかった（1点）		R4 活動評価	来年度の改善方針
重点事項	年度努力事項（評価項目）	実践目標	評価内容		経年比較		R3		
			基本的な生活習慣の確立と基礎・基本の定着を図り、安全で楽しい学校づくりを目指す。	基本的な生活習慣を確立させる指導の工夫・改善を図る。	全教職員の意思統一が図られた生徒指導を実践する。	1 生徒指導（基本的な生活習慣の確立）について、指導部会や研修会等を実施し、共通理解が図られた生徒指導が実施されている。		3.1	3.8
2 いじめ問題に対して組織的な対応ができていない。	4.2	4.4				・早期発見から迅速に組織的な対応がされている。 ・学年と指導部で連携しながら、学校全体として取り組んでいる。 ・アンケート実施後、迅速に組織的な対応が来ている。	・今後も、いじめアンケートや面談等で早期にいじめを発見し、必要であればいじめ対応委員会を開き、即座に対応していく。		
学校と家庭との連携強化が図られた指導を実践する。	3 学校HP、学校新聞、学年便り等、学校の教育活動や方針について情報発信がなされている。	4.7			4.5	・HPはとて充実していた。タイムリーに学校の取り組みが更新されており、各部署での取組が松陽日誌を通じてうまく発信できていた。写真が豊富に載せられておりわかりやすかった。 ・定期的に情報発信されていると思う。 ・HPでの発信や学年通信等で情報発信ができた	・引き続き、ホームページや携帯メールを利用して、学校や学年からの情報発信をより積極的にできるよう考えていく。更新方法については検討していく必要がある。担任・学年の負担を考えた上で、担任と保護者の連絡が密にとれるよう協力体制を構築する。		
	4 家庭連絡や家庭訪問、PTA活動を通して、保護者との情報交換や意志の疎通を図り、教育活動や行事で保護者との協働体制が確立されている。	4.1			4.3	・各学年級担任により、保護者との情報共有が図られているように思うが、担任→学年→他学年・専門部へと共有が必要な情報を共有する機会がなく、副担任として接する場合に情報の共有が十分でないことがある。 ・欠席連絡や指導内容の連絡など学年担任が日々保護者へ連絡し信頼関係を築いている。 ・電話のつながらない（対応してくれない）保護者への対応には困る。	・業務を削減しながら、新たな改善策を取り入れていく必要がある。 ・仕事内容によっては、学年・部・学科だけでなく、管理職や事務室と相談しながら、より良い保護者との協働体制を作る。 ・来年度以降は電話が繋がらない場合は、メール等を活用していく。		
生徒のマナーや規律・規範意識の高揚を図る。	5 教育活動全般を通じて、マナーや規律などを守る取り組みや、立ち番指導などを通じて、通学マナーを向上させるための取組が行われている。	3.8			4.0	・マナーや規律などを守る取組が行われ、一定の成果があったが、特に校外ではマナーや規律などを守ることができていない生徒が一部いる。 ・教員、学年によって指導内容のズレがあった。 ・なかなか本質的な改善には至らないものの、一定の基準は明確化されている。 ・朝の立ち番等で、新学期からの継続的な声掛けで、登校時のマナーがすいぶん改善された。	・全職員が統一された基準で生徒に声掛けができるよう、指導部会で議論していく。 ・松陽高校みだしなみマナー向上プロジェクトを定期的実施し、マナー向上の啓発を続ける。 ・登下校時の立ち番指導で粘り強く指導していく。		
	6 生徒のマナーや規範意識を高めるため、家庭や関係機関と連携した取り組みが行われている。	3.7			3.8	・家庭連絡は徹底して行った為、保護者からの協力が得られた家庭がほとんどであったが、一部の家庭では校則違反に対する学校側と保護者側との温度差が見受けられることがあった。 ・家庭連絡がこまめであり、連携を図れていた。 ・遅刻指導やイエローカード指導を通じて保護者との連携をとることができた。	・遅刻指導やイエローカード指導では、家庭との連絡を密にし、保護者の理解を得ながら、生徒指導を進めることができた。 ・今後も関係機関と連携して、交通安全教室やサイバー犯罪被害防止教室、薬物乱用防止講演会等を実施し、規範意識の向上に努めていく。		
分かる授業、楽しい授業をするために、学習指導の工夫・改善に努める。	分かる授業、楽しい授業をするために、学習指導の工夫・改善に努める。	7 授業研究など学習指導について「アクティブラーニング」の観点を取り入れICT機器を活用する。など工夫・改善がなされている。		3.9	4.0	・ICT研修が行われ、多くの先生がICTを活用して授業されていると思うが、まだ教員によりばらつきがある。 ・教員が授業で使用するデバイスは学校所有のSurfaceなのか、私物のものなのか分からない。教員の持つデバイスの整備が求められる。 ・タブレット導入で、より視覚的で双方向な授業が増えた。	・令和4年度からスタートしているBYOD（Bring Your Own Device）導入に向けて、校内研修を積極的に行う。 ・教科横断的な議論の場を設け、「アクティブラーニング」を積極的に取り入れている教科から学ぶ機会をつくる。		
		8 一般公開も含めた授業公開が、各教科において実施されている。		4.0	3.6	・公開週間などがあり、様々な教科の授業を参観できた。 ・実施されているが、見に行く時間を捻出できなかった。	・コロナ禍ではあるが、授業の公開週間を設定し授業参観の機会を増やす。		
	多様な学習指導と適切な課題や補習、家庭学習の習慣化を図る。	9 校内研修を実施したり、校外研修会に参加するなど、学習方法や教科指導の工夫改善が図られている。		3.6	3.8	・教員の個々の努力によりICT化が進められ、ICT機器を使うということが浸透しつつある。 ・ロイロノート活用の研修は継続的に行うことで定着していく。 ・研修会の内容や頻度の検討が必要だと感じる。 ・ロイロノート研修でこれからは必要となる内容を学べた。	・ICT化を進めるため定期的に校内研修（可能なら外部講師などにも依頼）を行い、多くの教員がICTを用いた授業に接する機会を増やす。		
		10 個に応じた多様な学習指導が実施されている。		4.1	3.6	・低学力層へ目が向けられがちだが、上位層の受験指導についてより力を入れるべきである。 ・習熟度別学習等により学力上位の生徒に対して手厚く指導していきたくと考えているが、習熟度別クラスの実施により下位層の授業クラスへの指導に苦労した。 ・ITで授業実施することにより、個別の指導が出来る。 ・個に応じるには教員数の増加が必須である。	・各学年や教科と連携して、先取り学習や発展的学習に取り組む方法を教授しながら、授業以外の事柄にも積極的に取り組む機会を設け、受験で高みを目指していくことにつながる意識を持たせるようにしていく。 ・校外模試を積極的に受験するように意識づけしていく。		
生徒の興味・関心・進路に応じた教育活動を展開する。	多様な学習指導と適切な課題や補習、家庭学習の習慣化を図る。	11 課題や補習を通して、家庭学習の習慣化や基礎学力の定着、資格取得につなげている。	3.6	3.4	・補習に関しては、商業科・生活文化科においてとても手厚い指導がなされていると思うので、普通科のほうももっと補習をしていく必要がある。 ・調査時の課題提出の状況等を踏まえると、家庭学習の習慣が確立できていない生徒が多い。 ・検定取得等の小さな成功体験を積み重ねていくことで、自己肯定感が高まり主体的な学習につながっていくと考える。 ・家庭学習の少なからず、基礎学力向上が難しい。	・新しい観点別評価に対応して、主体的に評価に対して意識をさせ、前向きに課題に取り組む意欲を持たせることで、家庭学習時間の確保につなげていく。			
		12 総合的な探究（学習）の時間では、「生きる力」「キャリア教育」を意識した教育が行われている。	3.7	3.5	・「防災教育」などは、身近な安全を考えると非常に意味のある取組である。 ・今年度は防災教育に力を入れ、災害を題材として生きる力を育むことができた。 ・以前から実施していた専門学科はより深めていく必要がある。普通科に関してはまだまだこれから深めていく余地がある。	・カリキュラムの大枠はできているので、さらにアップデートしていく（授業内容の充実、新しい授業内容の模索・追加） ・後半にPCIによるまとめ作業をするので、情報教室の確保			
	地域の人材や素材を活用した特色ある授業の取組が行われている。	13 生徒の進路希望に応じたカリキュラムや多様な選択科目が設定されている。	3.9	3.5	・そもそも進路希望が漠然としているので進路意識を持たせる必要がある。 ・進路に対する意識を持つことができていない生徒が多く、科目設定の面でも工夫が必要である。 ・商業科に関してはまだまだ多様な余地がある。 ・もう少し明確にそれぞれの進路に応じたカリキュラムの提示をした方が選択科目を選ぶ上でわかりやすい。	・1,2年生の時から、学年集会等での講話などを通じて、現状を伝えていく。 ・進学（一般入試）にも対応できるようにカリキュラムに変えていく。また、早く案に合格できる方法だけでなく、最後までがんばらせることも、進路ガイダンス、学年集会、LHRなどで伝えていく。			
		14 地域の人材や素材を活用した特色ある授業の取組が行われている。	4.1	4.1	・商業科や生活文化科においてよく取組が行われているので、普通科はもっと商業科や生活文化科を見習って取組んでいく必要がある。 ・商業科、生活文化科での取り組みが目立った。 ・専門の講師を招いて、学校の教員からだけでは学べないことを学び、生徒もいつもと違う雰囲気を取り組んでいる。	・地域の人材を活用した講演会や、特産品の商品開発、地域と連携した活動等が活発に行われているが、それを地域に発信したり活動をPRしたりする場が少ないので、次年度は広報活動にも力を入れたい。 ・例年通りの取り組みにせず、常にアンテナを張って新たなことに挑戦するための連携を試みていきたい。			
望ましい人間関係を築き、生徒の生命と財産が守られ、差別のない安全な学校環境を構築する。	生徒一人ひとりに居場所があり、温かい人間関係が築ける学級経営を行う。	15 クラスの中で、他人を馬鹿にしたり、からかったりせず、互いを認め合う好ましい人間関係が築かれている。	3.7	2.5	・大半の生徒はできているが、一部では心無い発言が聞かれることがある。 ・クラスという枠を崩して教室ごとに科目を割り振ってその授業に生徒が集まるようなシステムにしたいと思う。 ・人間関係をうまく築くことができない生徒が多い。コミュニケーションが上手でできずにトラブルになることが多い。 ・自分よがりの生徒が多く、気遣いができていない生徒が少ない。 ・人間関係の中でいじりがエスカレートする場面がある。	・粘り強く対応してしていくしかない。生徒の様子をしっかり観察して変化を学年等で共有することが必要。 ・人間関係の問題に関してはできる限り個別に対応し、個々に気持ちに寄り添うことで改善、解決を図る。 ・要配慮の生徒をその学年だけでなく、特別支援教育を中心に対応をマニュアル化し、以後の指導に役立てる。			
		16 生徒の個人面談や日頃の声かけ指導等ができていない。	4.6	4.3	・学年団と学年外の先生との協力体制が構築できている。 ・面談週間等を設けて担任や学年外の先生も面談できる機会を作りたい。 ・担任の先生を中心に各学年、各教科で日頃から生徒に声掛けがなされている。 ・個人面談を各学期に行えるような体制づくりが必要である。 ・意識的に行うようにはしているが、どうしても他の雑務に追われて後回しになる。	・学年団や担任以外の先生も面談週間等を利用して、生徒と面談してもらえるような体制がとれると良い ・前向きな生徒へ時間がとれるような形になると良い ・今年度は学年主任面談を実施した。クラス担任以外の教員が面談を行うメリット（不満や悩み事を吐露しやすい）も感じられたので来年度も実施していきたい。 ・担任以外の教員との面談回数を増やすなど多面的な指導ができるようにルール作りを行う。			
	防災教育、安全教育の充実を図る。	17 避難訓練や交通ルールを遵守する指導等、参加型・体験的な教育活動が実施されている。	3.4	3.4	・避難訓練は避難経路の確認だけでなく具体的なシナリオで訓練を行えなかった。 ・交通ルールを遵守する指導は日頃の登下校時のマナーにつながるため年間複数回実施しても良い。 ・よく実施されている。	・2回の防災避難学習・訓練を通して、災害対応についての知識と行動力を養う。 ・交通安全マナーに関する講演会を実施する。			
		18 地域の関係機関や外部講師を活用して、生徒の防災意識、安全意識の高揚が図られている。	3.5	3.5	・外部講師を活用して、生徒の防災意識、安全意識の高揚が図られた。 ・普通科は総合的な学習の時間を通して、防災意識の高揚が図られた。 ・外部と連携した防災教育は少なからずあった。地域と一緒に避難訓練等を考えていく。	・今年度実施できた防災講演会を、来年度以降も継続して開催したい。 ・防災学習で学んだことを校内外に発信する機会を設け、地域と連携して防災意識、安全意識の高揚を図る。			
	人権教育を充実させ、人権意識の高揚を図る。	19 人権教育が3年間を見通した年間指導計画に基づき、計画的に実施されている。	3.8	3.4	・計画的に実施されていると思う。 ・よく実施されている。	・これまでの流れを継承しながら、新しい知見も取り入れていきたい。			
		20 職員研修や講演会や映画会等を通して、生徒・職員の人権意識を高める取組が行われている。	3.7	3.7	・よく実施されている。	・これまでの流れを継承しながら、幅広い視点で使用教材や講師の選定を行っていく。			
<p>学校関係者評価委員会からの提言</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本的な生活習慣を確立させる指導はできている。交通マナーについては、教員だけでなく、部活動の先輩が後輩に指導したり、地域と連携して指導するなど工夫できると思う。 ・コロナ禍やスマホの普及で社会が寛容し、コミュニティーも奪われてきたが、このピンチをチャンスに変えるために、学校というコミュニティーが子どもと地域社会をつなぐ役割を果たしてほしい。 ・大学進学が主流だが、企業としては、高校や専門学校からの就職希望者に対する採用意欲は高い。今後も、個に応じた多様な進路に対応した進路指導を実施してほしい。 ・生徒の清掃活動や防災活動に対する意識を上げるために、地域としても合同での清掃活動や防災活動ができればと考えている。 									
<p>・町の中で唯一の高校であり、これからは応援していきたいと考えている。</p> <p>・スマホの台頭でコミュニケーション手段が変化し、コロナ化でそれに拍車がかかっている今、従来の慣習等にとらわれず、新しいルール作りや取り組みにチャレンジすべきであるとする。</p>									